

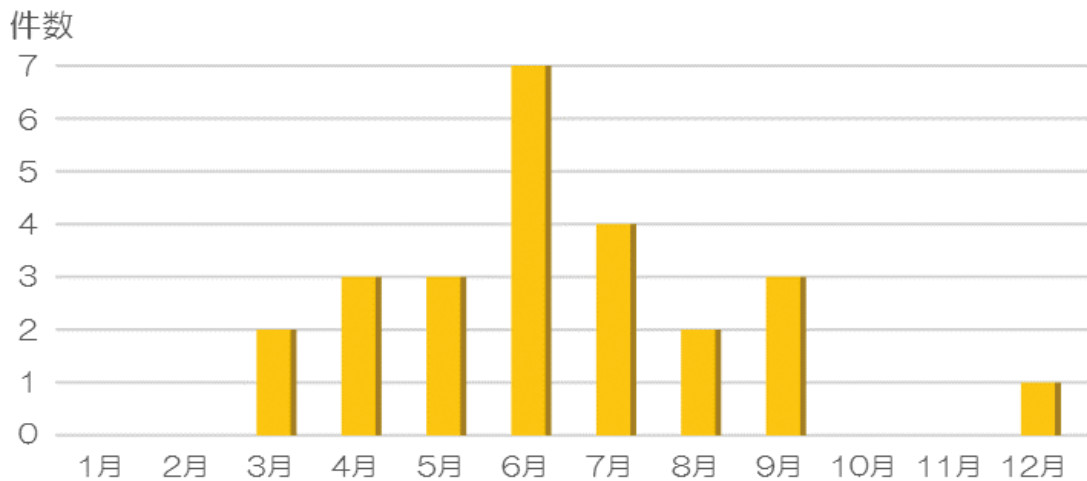
環保研 だより

Vol.29
2017. 3

『新鮮だから安全』ではありません!

生・半生・加熱不足の鶏肉料理による**カンピロバクター食中毒**が多発しています。

わが国では、**カンピロバクター**による食中毒が、毎年200～400件発生しています。春から秋にかけて発生のピークがみられますが、冬期にも発生がみられます。



香川県におけるカンピロバクター食中毒の月別発生件数（平成18年～27年）

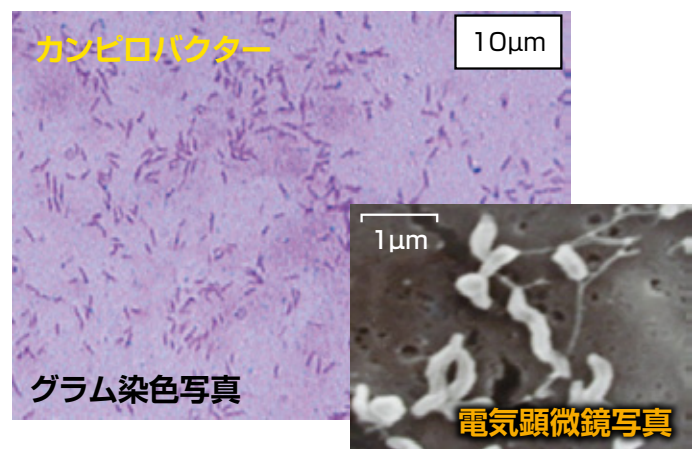
特徴

- ・少ない菌量でも発症します。
- ・鶏や牛などの家畜をはじめ、ペット、野生動物など、いろいろな動物の腸管内に生息し、食肉を汚染し、特に鶏肉での汚染率が高くなっています。
- ・熱や乾燥に弱く、75℃1分の加熱処理で死滅します。
- ・らせん状の菌で回転しながら進みます。

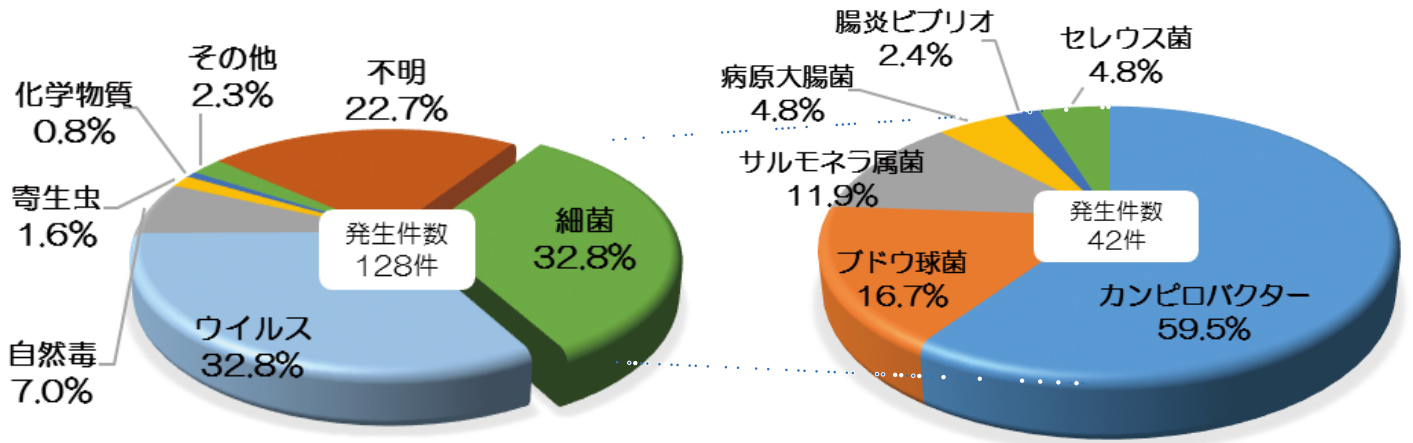
症状

- ・水様性下痢、嘔気、腹痛、筋肉痛などの症状を引き起こします。多くは比較的軽症で経過し、自然治癒するケースが多いが、まれに重症化しギラン・バレー症候群※を発症することがあります。
- ・潜伏期間は2～7日と比較的長いのも特徴です。

※ギラン・バレー症候群：手足の麻痺、顔面神経麻痺、呼吸困難等を起こす急性末梢神経障害



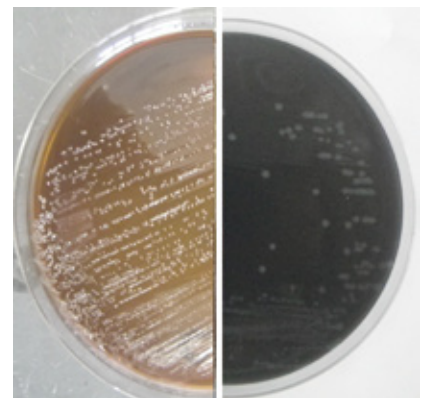
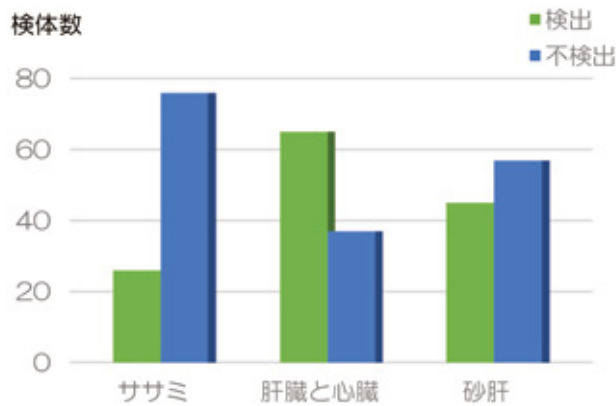
平成18年から27年の10年間に香川県内で発生した食中毒の3分の1が細菌性の食中毒であり、その半数以上が**カンピロバクター**によるものです。



香川県における病因物質別発生件数 (平成18年～27年)

過去の厚生労働科学研究の結果によると、市販の鶏肉からも**カンピロバクター**が検出されています。

当センターでは、食鳥処理場から鶏肉(ササミ、肝臓と心臓、砂肝)を採取してカンピロバクター汚染調査を行っています。平成16年4月から平成28年3月までに306検体を検査し、そのうち約40%の136検体で**カンピロバクター**が検出されました。特に、肝臓と心臓は半数以上から検出されています。



カンピロバクターのコロニー
(左)スキロー培地 (右)CCDA培地

当センターで調査した鶏肉からのカンピロバクター検出数

家庭での食中毒を防ぐために

- ・鶏肉は中心部までしっかりと加熱 (中心部を75℃で1分間以上)
- ・他の食材に菌が移らないように注意

鶏肉は食生活に欠かせない食材です。生食を避け、十分に加熱、調理して楽しい食事にしましょう。

こんな研究 やってます ⑥

瀬戸内海の環境を見守っています〔海水中のLAS〕

LASとは？

私たちの生活にとっても身近な化学物質で、主に家庭で使う洗濯用の合成洗剤や、業務用の洗浄剤等の成分として使われています。

物質名は「直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩」で、英語名のLinear Alkylbenzene Sulfonateの頭文字をとって「LAS」と呼んでいます。

※LASは化学構造が少しずつ異なる20以上の混合物です。



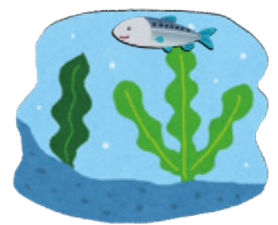
水生生物の保全に係る環境基準

環境基本法に基づく水質汚濁に係る環境基準は、「人の健康の保護」や「生活環境の保全」を目的としており、水生生物を保全する観点からも生活環境の保全に関する環境基準の項目が加えられています。

これまで、平成15年に亜鉛、平成24年にノニルフェノール、平成25年に直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)が項目に追加されました。

海域のLASに関する環境基準

項目 類型	水生生物の生育状況の適応性	L A Sの基準値
生物A	水生生物の生育する水域	0.01mg/L以下
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.006mg/L以下

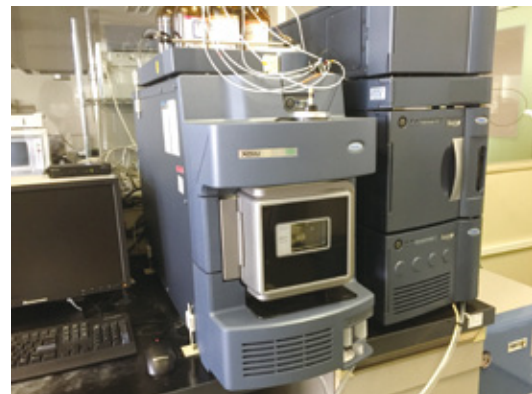


海域の常時監視

当センターでは、県内海域の14地点で毎月採水し、海水中のLASを液体クロマトグラム・タンデム型質量分析計(LC/MS/MS)で分析しています。平成27年から測定を開始し、測定結果は環境基準値を大幅に下回っています。



船上での採水風景



液体クロマトグラム・タンデム型質量分析計

研究テーマ外部評価委員会が開催されました

外部評価は、県の試験研究機関が行う研究について、外部の専門家等による適切な評価を行うことにより、県内産業の競争力の強化や県民生活の質の向上につながる実用的な研究を推進するとともに、研究機関の活性化を図ることを目的として実施するものです。

平成28年度は、事後評価2題と事前評価1題が評価されました。

	研究テーマ	研究期間	評価
事後評価	薬剤耐性菌の動向調査・監視のための研究 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の薬剤耐性遺伝子の検出状況について	平成27年度	A
事後評価	ヒートアイランド現象の低減に向けた技術の開発 窓用着脱式調光シートの開発と省エネルギー効果	平成25～ 27年度	A
事前評価	緊急時等に応用可能な大気汚染物質簡易測定技術の開発 水銀の簡易迅速な採取方法 ダイオアナフィルタを利用した 大気中の有害物質採取法の開発 ほか	平成29～ 31年度	B

○ 評価基準 A:研究の成果を活用する B:得られた成果をもとに引き続き研究を行う C:期待どおりの成果が得られていない



(平成28年8月23日、10月3日開催)

平成28年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議開催

平成28年度環境測定分析統一精度管理中国・四国ブロック会議を2月28日に、高松で開催しました。この会議は、地方公共団体の試験研究機関の環境測定分析業務の信頼性確保と分析精度の向上を図ることを目的としています。



平成28年度に環境省が実施した精度管理の調査結果の評価や精度管理の問題点について話し合いました。

KAGAWA環境研だよりVol.29 平成29年3月

編集・発行 香川県環境保健研究センター

〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105

TEL (087)825-0400 FAX (087)825-0408

E-mail:kanpokan@pref.kagawa.lg.jp

U R L:http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/e_center/hoken.htm